

目的 イラクサは古代以来、山村に住む人々の衣料原料として用いられてきたことは文献によって知られている。私達は標題の研究を第6報に続けて、調査地域を更に拡大し、利用の実態をより明らかにすることを目的として調査・研究したので報告する。

方法 既に知られている文献記載地および類似地区を訪ね、あらかじめ設定した項目について古老(なるべく女性)からの聞き取り調査と、既調査地に隣接する未調査県につき文献資料を収集し、利用の確認を行う。

結果 昭和14年初版発行、大住吾八著「織物原料」によれば、伊豆八丈島は苧布の産地とあるので現地赶赴し利用の実態を尋ねたところ、島の人々はイラクサそのものも、文献に記されていることも全く知らなかった。又、葛西重雄著「八丈島動植物総目録」でも繊維利用可能なイラクサ科の植物はカラムシ以外に植生はない。したがって苧布の産地とあるのは実態と全く異なる記述であることを確認した。しかし著者は既に故人となっており、その典拠は不明である。また既調査県に隣接する地域で未調査であった山梨・群馬・栃木の三県につき文献資料の収集を行ったところ、並べ59県の県・町・村史および誌、民俗調査資料集、植物誌等にあたることかできた。これらの資料から三県共に植生は確かめられた。しかし山梨県は全く群馬・栃木両県北部に多く南部は無い。イラクサの繊維利用は皆無であった。この結果から群馬県嬬恋村・六合村・水上町・片品村・利根村、栃木県日光市・栗山村を類似地区として現地に聞き取り調査を行った。以上の7地区のうち4地区に食用を確かめ、栃木県栗山村湯西川で繊維利用の痕跡が見られた。